

2012年9月10日

内蒙古自治区霍林郭勒市について

上海産業情報センター

横江 隆弘

今回は、先月に引き続き、新しい投資先候補地の紹介をさせていただきます。前回、上海市にある都市部の工業園区を紹介させていただきましたので、今回はがらりと趣きを変えて、まだ日本からの投資はおろか、外国企業の投資がないという、おそらくこの地名を知っておられる方はまずいらっしゃらないのではないかと思われる内蒙古自治区霍林郭勒市（ホーリングゴル市）を紹介させていただきます。

1 内蒙古自治区霍林郭勒市（ホーリングゴル市）の紹介

内蒙古自治区霍林郭勒市（ホーリングゴル市）は、1985年に国务院の批准を受けた非常に新しい中国内蒙古自治区の東北部にある通遼市管轄の県級都市になります。その人口は、11万人（通遼市が300万人）で、面積は、585平方KMとなっています。ただ驚くべきことは、そのうちの540平方KMに石炭が埋蔵されているということです。モンゴル共和国の国境までは120KMでたどり着きますが、虹橋空港から通遼空港まで約3時間かかり、通遼空港から霍林郭勒市まで車で約3時間ほどかかるところにあります。



交通インフラにおいては、現在建設中の霍林郭勒空港が2014年に完成することになっているほか、

鉄道関係では、2本の鉄道路線があり、快速列車で通遼市まで約5時間かかるそうです。道路は、国道304号線と省道101号線が通っており、写真のような景色の中を快適に走っていくことになります。

2011年のGDPは、240億元で内蒙古自治区の中では、11番目であり、全国県級都市のなかでは、114番目となるのですが、一人当たりGDPでみると、29,000元になり、なんとシンガポールと同等になります。全人口の78%が労働人口になるのですが、平均収入はかなり高いレベルにあります。労働人口の割合が高い理由は、1985年ごろにこの地に移民してきて、街を建設した人が多く、定年になったら故郷に戻る人が多いため、霍林郭勒市には若い人の割合が高いのです。

2 エネルギーの街として発展する霍林郭勒について

霍林郭勒市には、確認されているだけで埋蔵量 119 億トン低硫黄一般炭があり、市街地近くで巨大な規模で露天炭鉱が採掘されています。露天炭鉱は何層にも石炭があり、石炭層の間の土砂も炭鉱の周りに山のように積み上げられています。石炭は大型ショベルカーで掬い取り、トラックに積み込まれたり、ベルトコンベヤで市街入口にある発電所に輸送され、複数の大型火力発電所で電力に変えられています。また、焼却後石炭滓は再びコンベヤで炭鉱に戻され、炭鉱と発電が一体となっています。



電力の 70%は外部に送電されますが、市内にはアルミ精錬工場があり、原料のボーキサイトはオーストラリアからの輸入で、電気の缶詰と言われる大規模なアルミ工業が運営されています。



2 霍林郭勒市の外国企業誘致のねらい

このように霍林郭勒市の主な産業は、①石炭・石炭化学、②火力発電、③アルミ生産です。

① 石炭・石炭科学

2011 年の石炭の発掘量は 5700 万トンです。埋蔵量が 119 億トンあることから換算すると掘り尽くすまでに何年余裕があるのでしょうか。羨ましい限りですが、現在の発熱量は 3100 Kcal です。これを 5000Kcal まで効率化して上昇させたいと考えられています。そのための加工工場の対応可能規模が年間 500 万トンに過ぎません。年間生産量 5700 万トンに対して絶対的に不足しています。このような技術力をもつ外国企業の投資を実現できないかと取り組まれています。

霍林郭勒市の省エネ政策においては、国の制度と併せて、もし 1 トンの石炭を節約することができれば、350 元の補助が交付されることになっているそうです。

② 火力発電

霍林郭勒市の現在の火力発電施設の能力が 250 万KWで、風力発電施設の能力が 18 万KWあります。霍林郭勒市だけを賄うなら何の問題もありません。実際には、西内モンゴル電力ネットワーク及び東北（三省）電力ネットワークに関連しているため、2015 年までに 1000 万KWの発電が計画されています。現在建設中の発電施設の発電量が 400 万KWなので、まだ 350 万KWの発電が不足するとされています。

③ アルミ生産

2011 年のアルミ生産量は、113 万トンであり、2015 年までに年間生産量を 500 万トンに増加する予定とのことです。霍林郭勒市は、中国屈指のアルミの産出地域ではありますが、2012 年現在のアルミ製品の加工能力は年間 60 万トンにとどまり、加工技術及び加工産業の不足が問題として挙げられています。霍林郭勒市はアルミの先端加工技術を有する企業を招聘して、アルミの生産から加工までを同市内で行うことにより、産業発展につなげたいという強い意向があります。大規模投資を計画される場合には、加工園區の開設も可能としていますし、優遇政策として、20 億元の投資につき、1 億トンの石炭採掘権を提供することも考えられているようです（実際発電設備をつくるか、採掘権を電力会社に売却することで電気代を補助することになります。）。

3 今後の可能性

霍林郭勒市は、上述しましたように石炭、発電、アルミ生産を主な産業とされています。また、モンゴルらしく雄大な草原を有しており、自然豊かな土地です。とてもすばらしい環境のなかにあり、夏はとても過ごしやすい場所です。



日本の中小企業が単独で進出するにあたっては、現段階では厳しい環境と思われますが、霍林郭勒市が求める分野で技術力のある社にとっては、大手企業のプロジェクトのメンバーとしてなら、外国企業がまだ投資をしていない状況を鑑みても非常に魅力のあるところのひとつではないでしょうか。今の段階なら地元の手厚い優遇政策を霍林郭勒市から受けることができると思います。

上海産業情報センターでは今後もこれらの状況に注視していきたいと考えております。

上海産業情報センターでは今後もこれらの状況に注視していきたいと考えております。

